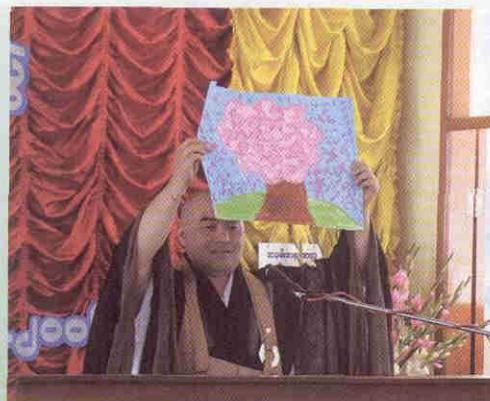




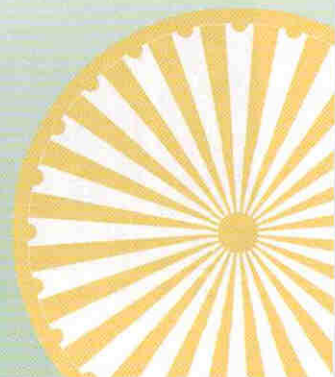
ミャンマー ユアテツカリ村 小学校校舎落慶式

昨年十一月国際臨済禅会報にて紹介致しましたミャンマーマンダレー校外ユアテツカリ村の小学校校舎が無事完成し、去る二月二十一日、日本より三十八名の記念訪問団を得て校舎落慶式が盛大に開催されました。落慶式には同国文部省のキムアウェイ氏、軍関係者からモンワン大佐が来臨し、百三十五名の児童達の輝く顔が見守る中、般若心経の誦経、キムアウェイ氏の謝辞、関係書類の伝達などが執り行われ、校舎寄贈の主体となった



国際臨済禅交流協会を代表して東園寺住職から子供達に励ましの言葉が述べられました。

日本よりの参加者は、バガン（弓部隊）、メイミョー（陸軍墓地）、オカラッパ（日本人墓地、勇部隊供養碑）の各所を参拝し、日本人戦没者はもとより各国のビルマ戦の戦没者の慰霊と平和祈願法要を営み不戦の誓いを行いました。



ミャンマーで感じたこと

前述の通り国際臨済
禅交流協会より贈呈さ
れたミャンマー、マン
ダレー、ユアテッカリ
ー村の小学校落慶式参
加の為、去る二月十七
日より一週間ミャンマ
ーへと旅をしてまいり
ました。拙文を認める
前にこの期間に法事葬
儀をなさった檀信徒の方々におかれまして
は、住職として法務を懈怠致しました事を
心よりお詫び申し上げます。

さて今回東園寺にセンターを置く国際臨
済禅交流協会がミャンマーに小学校を贈呈
することとなったきっかけは仙台市の株ワ
ールドトラベルの社長である加藤氏より、
ミャンマーの小学校建築に関しての打診が
仙台燕沢の善応寺様を通じて東園寺に寄せ
られたのが始まりでありました。私は国際
臨済禅交流協会としても東園寺としても外
国に学校を寄贈するなどということは初め
てのことでしたので不安もありましたが、
ミャンマー（旧ビルマ）は先住精道和尚が
昭和二十八年に全日本仏教青年会の代表と
して渡緬し、それがその後の先住和尚の国

際活動の基礎を創ったところであることと、
本年は先住の十三回忌にも当たり、何かし
ら先住が仕事を与えてくれていたような因
縁を感じ、非力を省みず小学校の建築に踏
み切った次第です。実際にプロジェクトが
始まってしまえば、ミャンマー語が話せる
わけでもない私達が建築の申請など出来る
わけも無く、現地のソウ氏、仙台在住のミ
ャンマー人スーザ・ミョータン氏にすべて
を委ねることとなりました。私達の仕事は
二百五十万円の資金を捻出することが主な
ものでしたが、やはり多くの人にこの計画
を知って頂くということが最も大切な課題



政府と軍の関係者

となりました。この課題に積極的に取り組
んでくれたのは当山の青年部でした。チャ
リティーコンサート開催はこの小学校建
立の最も大きなアピールとなったばかりで
は無く、当山の青年部にとっても新しい活
動の場を見つけるきっかけとなったと思い
ます。

さて前置きが長くなってしまいましたが、
建築された小学校は思いのほか立派な仕上
がりでありました。ご承知の通り現在ミヤ
ンマーは軍事政権下ということもあり、外
国人が小学校を寄付するということが以前
に比して難しくなっています。現地で政府
と折衝したソウ氏の労力は大変なものであ
ったに違いありません。また、設計施工に



ピンダヤの洞窟寺院

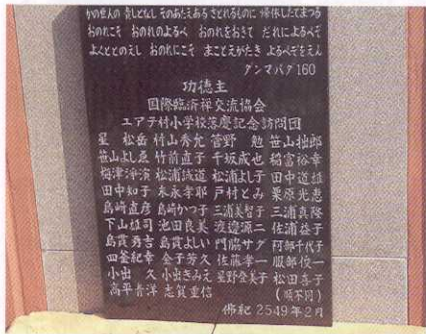
住職 千坂成也



完成した校舎

携わった現地のスタッフには十一月の下見の際には全くゼロの状態でしたから、よくこの短期間にこれだけの建物を建立できたものだと思います。正直なところ善応寺和尚と私は工期の短さや、湿地同然であった十一月の土地の状態などから、建物には不安を持っておりましたが、車中から垣間見た校舎の大きな屋根に本当に安堵致しました。

今回の旅程ではヤンゴン校外のオカラッパ日本人墓地、パガンの弓部隊供養碑、メイミョー陸軍墓地に参拝し、それぞれ慰霊と不戦の誓いを致しました。メイミョー陸



参賀者芳名板—寄贈志賀石材店

日本軍事司令部が置かれ、戦後には日本兵の収容所が置かれていました。トタン葺きの覆屋で守られた「陸軍墓地」と表書きされた供養碑は、収容所で亡くなった兵士の為のものとのことでした。収容所の兵士たちは、主に石切り場で労働させられていたようです。マンダレーから三十五マイルの



軍墓地は私にとつて初めて訪れる慰霊所でしたが、古都マンダレーより約七十キロ、車で二時間ほどのこの地には戦中には

地点にも三十五マイル収容所という日本兵の収容所があったそうです。現在でもこの街道には石切り場があり、大変埃っぽいところでした。何れにしても、故郷を離れ、この異国の地で、日本の未来ある若者が如何なる想いを胸に亡くなっていったのだろうと思うと本当に堪らなくなりました。帰国後に得た情報によると、収容所の周りには食べ物届けにくるミャンマーの人々が少なくなかったそうです。ミャンマー人の慈悲深さを知ることが出来るエピソードといえるでしょう。



オカラッパでの法要

インドのアッサム地方にあり、ミャンマーに程近いインパールは、イギリスのインド駐留主要拠点であり、インド攻略を目指す日本軍にとって優先的に占領したい地域でありました。インパール作戦がビルマ・インド国境で決行されたのが昭和十九年の三月でありました。武器はもとより食料補給も間々ならぬジャングルでの同戦は参加将兵八万六千人、うち戦死者二・三万人、戦病死者四万人以上という未曾有の敗戦となりました。またその戦病没者の多くが餓死であったことを考えると、作戦自体の計画が無謀であったとは明白であるというより他ありません。またインパール作戦自体が劣勢なる戦況を挽回する為に決行された作戦であるとされますので、日本軍幹部は終戦まで一年以上の間、救われるべき命を犠牲にしたといっても過言では無いのです。よく戦時中のことは平和な現代の価値観で語るべきでは無いという方がいます。しかし平和ボケである現代であるからこそ、悲惨な戦況を知り、それを今日の価値観で現代に活かす努力をすべきであると思います。避暑地としても名高いメイミョーの豊かな自然は、ミャンマーの土となったみ霊の声を私たちの心に伝えているようでありました。

オカラッパでの慰霊行事は、戦没者の供養と同時に、世界平和の祈願をもって厳修

されました。位牌に書かれた文字「怨親平等」は敵国の戦死者も自国の戦死者も平等に弔うという意味の言葉であります。怨親平等とは「過去現在因果経」の「怨親平等に法を説くべし」というお釈迦様の教えに由来するもので、「我を害する怨敵も憎むべきではなく、我を愛する親しきものにも執著してはならず、平等にこれを愛する心をもつべきこと」（広説仏教語大辞典——中村元著）をいいます。（十三世紀には鎌倉・円覚寺が、この教えにより元寇の元・日本双方の戦没者の為に北條時宗を開基として建立されています。）私たちがこの教えに従って、ビルマ戦すべての戦没者、さらには日本・イギリスの統治により祖国を戦地にされたミャンマーの人々にも回向を致しました。私たちの法要が少しでも戦没者の魂に届き、小学校建立がミャンマーの子供たちの将来に一筋の光明をもたらしたならば、主催者の一人としてこの上ない喜びであります。



メイミョー

青年部活動報告

涅槃会チャリティーコンサート開催

前述のミャンマー小学校建策に対するチャリティーコンサートが、菅田かおりグループを迎え、二月十日東園寺青年部青松会の主催で開催されました。涅槃会の法要で始まった当山初の試みである本堂でのコンサートは、百八十人の参加者を得て大変盛大なものになりました。このコンサートの開催に向けて青年部有志にはコンサートの計画、チケットの頒布、出演者の折衝、会場設営まで忙しい仕事の合間を縫って尽力して頂きました。このコンサートの成功は、結成四年、懇親に懇親を重ねてきた（？）当青年部の日頃の精進の賜物といえるでしょう。尚コンサートで得た収益金約二十七万円はすべて国際臨済禅交流協会を通じて、小学校建策資金として寄付されました。尚この模様は河北新報や東北放送等で報道されました。





瑞巖寺起雲軒老大師
よりお祝いの偈頌を
頂きました。



落慶式法要



法話



祝宴——本堂修繕を記念して書院が椅子式となりました。

本堂落慶式

去る十一月六日、先々住寺院一園禪尼葬儀の為延期されていた本堂修繕落慶法要が瑞巖寺起雲軒老大師、東園寺法類寺院、募財協力者、法句経写経会参加者のご随喜のもと厳肅に営まれました。また落慶法要に併せて、現在本堂仏伝画蒔絵の下絵制作に尽力を頂いている鶏足寺住職平出全价師の法話や東園寺所蔵墨蹟展などが催され、参加者は愈々法縁を深める機会となったようです。

新規墓地完成!

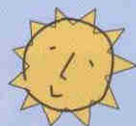
墓 地 情 報

昨年12月より工事をしておりました境内の新規墓地が3月末に完成致します。今回は様々なご要望やご意見考慮して広め墓地や夫婦用墓地も準備致しました。

墓地永代使用权(※) **50万円** より

※墓地を手に入れるということは、土地を購入するということではなく、家門が継続する限り永代的に使用する権利を取得することとあります。





たのしいおもいでいっぱいの一ねんかん 幼稚園だより



塩釜
中央幼稚園

塩釜
第二中央幼稚園



入園式



花祭り



プール遊び



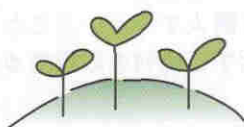
体育教室



盆踊り大会



遠足





芋ほり遠足



運動会



もちつき



成道会お遊戯会



節分



お店屋さんごっこ



卒園式



涅槃会参観日

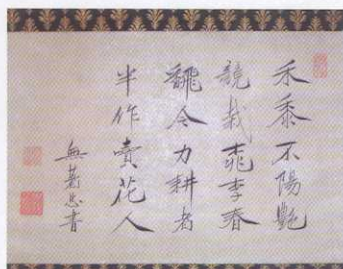


寺庫紹介

無著道忠禅師墨蹟

無著道忠(むじゃくうちゅう)

但馬の人 妙心寺塔頭龍華院竺印祖門に参じその法を嗣ぐ。宝永四年妙心寺に出世開堂。後に三度妙心寺の住持となる。江戸時代きつての学僧で三百七十四種九百九十一巻の著作を残した。曹源和尚は無著禅師に参じており、帰松の後石巻蛇田に龍華庵という小庵を設け悟りの境地を深めている。小庵に無著禅師の寺号を拝借していることから、曹源和尚の無著禅師に対する尊ぶの念を知ることが出来る。



無著道忠禅師墨蹟

「禾黍陽艶ならずと 競って桃李の春を裁う 半ば 無著書」(イネやキビが美しくないと 競って桃やスモなどを栽培している しかしそれでは藝田を生業する人間を 半ば花売り人にしてしまう) 人間は陽徳ばかりを求めている、大切なものを失うことになるという戒めであろう。

花祭りの夕

4月8日(土) 午後5時 東園寺本堂

会費大人3,000円 学生1,000円(お食事付)

お釈迦様のお誕生日をお祝いする楽しい会です。今年は本堂での開催となります。お間違えの無いようお願い申し上げます。



花祭り子供大会

・4月8日(土) 午前10時

・塩釜中央幼稚園ホール

あま茶あめを
プレゼント



本堂の耐震工事に伴い本堂の東西の壁に大きなスペースが生まれました。現在このスペースにお釈迦様の生涯をテーマとした時絵を作成すべく、落慶式で法話をして頂いた大本山妙心寺派布教師鶏足寺住職平出全价師が下絵を作成、当山の檀信徒である東北工芸様が制作に当たっております。下絵の一部が出来上がりましたのでどうぞご覧ください。

本堂佛伝図作成速報

東園寺ホームページ
<http://www.toenji.com>

毎月10日前後に更新しています。

東園寺中興開山曹源祖水禅師の行状記が読める他、所蔵墨蹟の紹介(寺庫紹介)、住職の法話のページ(ほら貝)など気軽な内容です是非ご覧ください。

宗教法人 東園寺

〒985-0026 塩釜市旭町4-1

学校法人 東園寺学園

〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51

代表役員 千坂成也

理事長 千坂秀也

花園会・会長 阿部久壽

022(362)0777 寺務所

022(362)8651 中央幼稚園

022(365)5616 第二中央幼稚園

022(364)4444 FAX

022(356)2933 ザ・ゼンクラブ